

The 58th Annual Meeting of Japan Geriatrics Society

第58回日本老年医学会学術集会

ランチオンセミナー13



フレイルと人参養栄湯

日時

2016年6月9日(木)
12:00~13:00

会場

ANAクラウンプラザホテル金沢
第6会場 3F 鳳・中

石川県金沢市昭和町16番3号 TEL:076-224-6111

司会

楽木 宏実 先生

大阪大学大学院 医学系研究科 内科学講座 老年・総合内科学 教授

演者

乾 明夫 先生

鹿児島大学大学院 心身内科学分野 教授

本セミナーは整理券制です。聴講希望の方は別途整理券をお取りください。

■ 配布時間: 9日 8:15~11:00

(整理券がなくなり次第終了。残券がある場合、11:00以降は各会場前にて配布いたします)

■ 配布場所: 石川県立音楽堂 1階 コンサートホール ホワイエ(参加受付付近)

*セミナー開始後、整理券は無効となります。時間前までにご入場ください。

フレイルと人參養栄湯

乾 明夫 先生

鹿児島大学大学院 心身内科学分野 教授

食欲不振、痩せを主徴とする悪液質病態は、癌や慢性肺疾患、心不全、炎症性腸疾患など多くの基礎疾患に合併し、肥満・メタボリックシンドロームという過栄養の対極に位置する病態である。食べ過ぎるのも、食べられないのも共に異常であり、両者を併せ、社会に対する二重負荷(double burden)として知られるに至った。

日本は世界に先駆けた超高齢社会に到達し、疾患構造そのものが大きく変貌しつつある。悪液質の特色は、食欲不振、体脂肪量減少とともに、骨格筋萎縮(サルコペニアsarcopenia)を生ずることであるが、60歳あたりから急速に筋肉量の減少と相対的な体脂肪量増加を生じやすい。社会の高齢化は、体脂肪の増加病態(肥満)と骨格筋の減少病態(悪液質)を、表裏一体の関係にした(サルコペニア肥満)とすることができる。

高齢化の進む我が国において、予防医学の立場から注目されているのが、サルコペニアを基礎にしたフレイル(frailty)である。漢方と言う未病病態であり、フレイルを予防、加療することによる健康寿命の延長が、愁眉の課題になっている。

近年、漢方の再評価がなされ、漢方研究の進歩とともにエビデンスに基づく漢方処方も模索されている。癌の緩和医療のように、漢方薬を応用することにより、抗癌剤の副作用を軽減し患者のQOLを高め、寿命の延長すら期待しうるほどの効果が得られるケースも認められている。フレイルは補剤の良い適応であり、多成分系を特徴とする漢方は、多様な身体疾患や不安・抑うつ・認知など、心身両面の異常を示すフレイルの治療に、威力を発揮するものと期待される。

本講演では、心身のフレイル病態とその治療に関し、人參養栄湯を中心とした漢方薬の効果を、エビデンスを含めて述べてみたい。

乾 明夫 先生

ご略歴

1978年 3月 神戸大学医学部卒業	2004年10月 神戸大学病院 糖尿病代謝内科診療科長に任用
6月 神戸大学医学部附属病院医員(研修医)に任用	2005年 1月 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 社会・行動医学講座 行動医学分野(現心身内科学分野)教授 及び鹿児島大学病院 呼吸器・ストレスケアセンター 心身医療科診療科長に任用
1984年 7月 神戸大学医学部助手に任用	
1997年12月 神戸大学医学部附属病院講師に任用	
2000年 1月 神戸大学医学部助教授に任用	2009年 4月 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 健康科学専攻長に任用
2001年 4月 神戸大学大学院医学系研究科 応用分子講座 消化器代謝病学分野(旧二内科)助教授に任用	2012年 7月 鹿児島大学病院 漢方診療センター長に任用 現在に至る

専門・指導医

日本内科学会指導医・認定医、日本心療内科学会専門医、日本消化器病学会指導医・専門医、日本内分泌学会指導医・専門医、日本老年病学会指導医、日本臨床薬理学会指導医、日本肥満学会専門医